

## ***English in Wonderland (Green Book)***

英語で遊べる楽しくて不思議な世界、それがこの **Wonderland** です。大人と共有する現実の世界ですくすくと成長を続けながら、同じ空間に驚きに満ちた夢の世界を繰り広げることのできる子どもたちに、‘英語を使って遊んでもらいたい’ という思いでこの絵本を作りました。その遊べる世界が電子ボード上に色鮮やかに映し出されました。子どもたちをおとぎの世界に連れて行って歌ったりクイズをしたりしながら楽しんでいただきたいと思えます。

この不思議な国へ入国するのにパスポートは要りません。子どもたちの好奇心と冒険心で、するりと入り込めます。あいさつを済ませると聞こえてくるのは、自然に体が動いてしまう ABC のリズムです。そしてそのままピノキオと一緒におとぎの世界で空想の翼を広げてください。ピノキオは先回りをして子どもたちを待っています。ピノキオがいないページがある？ そう、あのページにはいませんね。とっとと先に進んで、お城の屋上へ登って行ってしまったらしいですね。

世界中から集まってきた子どもたちは、不思議な国のお城を通りぬけて、お庭に出来ました。もう仲良くなって手をつないで歌ったり踊ったりしています。オオカミさんもおなかを空いているのを忘れて仲間に入りたような顔をしていますね。

子どもたちと一緒にボード上に現れた不思議な世界を眺めると、さらに楽しみ方が深まります。電子ボードの機能を活かして、画面を拡大したり、色つきのタイルを動かしたりしていると、そっぽを向いていた子どもも画面に引き付けられます。スピーカー・マークをクリックして、英語の音が聞こえてくると、子どもたちもクリックをして、自分でもう一度英語を聞きたくなり、真似をしたりするでしょう。

聞き損なった時には、ボードをクリックすると、ボードは疲れることなく何度でも繰り返してくれます。子どもたちは何処をクリックしたがるのでしょうか。大人の私たちがクリックしたいところと違うかもしれません。子どもの気持ちを大切に、子どもらしい英語に立ち向かう姿勢を見守りましょう。子どもの方が大人より先に英語らしさを身に付けてしまうかもしれません。

高学年になって、しっかり英語を覚えたいという気持ちが育つ前に、遊びの中で英語らしさを身に付けておくと、英語を使おうとする自信がつき、英語を習得していく土台がしっかり出来上がります。そして、小学校高学年から中学、高校に向けて英語を勉強し始める時に、受け入れる器が大きくなっていて、英語で考えながらコミュニケーションを図ろうとする力がついているはずです。**Wonderland** で遊んだことが、子どもたちの将来の英語学習の役に立つように願っています。

2012年3月 久埜百合